

## 【講演素案】

# 実務によって修める人間学

－実り多い人生の実現を目指して－

1 はじめに ー人間を磨く砥石は実務の中にあるー

2 人間学とは何か

ー人間性練磨のための生きた学問ー

3 実りある人生と生きがい

ー価値ある人生への着実な歩みー

4 実務者の基本姿勢と実務能力の要諦

ー自己の確立、三（誠・熱・創）意、問題発見・解決能力、勇・元気、運ー

5 分を知り、分を尽くす

ー灌木の心で培った私流の生きる力ー

6 むすび 混迷の世相への雑感ー

〈参考資料〉

- 人間学とは、人のあるべき生き方を目指して、修養をし、努力をし、品格を備えた人間（いわゆる「出来た人」）になるための指針を身につけるための学問である。

これは、洋の東西を問わない不易の学問である。

- 人間学を修める要訣

第一に、古今東西の優れた人物に学ぶこと。

身近な優れた人物に親炙（その人に近づいて親しく感化を受ける）するとともに、抽象的学問でなく、具体的な優れた人物の面目・魂を伝える書物などに接すること。つまり、私淑する偉人、賢人、達人、先師、先輩等の座右の書を持ち学び続けること。

第二に、人間学に伴う実践、すなわち、艱難辛苦、喜怒哀楽、利害得失など人間修養に怯めず、臆せず、己を空しゅうして、勇敢に対応・体験すること。

- 碩学安岡正篤は、『人間学講座・知命と立命』（プレジデント社刊）で次のように説いている。

人間にとっては、「知識の学」より「智慧の学」、「智慧の学」より「徳慧の学」が本質的に大切である。そして、徳慧の学、すなわち、人間学こそ文化の源泉であり、民族興隆の基盤である。－これは古今東西を通じ、変わらぬ重要な教学（教育と学問）である。

- 安岡正篤は、その上で、人間学の二大条件として次の二点を挙げている。

① 窮して苦しまず、憂えて心衰えず、禍福終始を知って惑わざること。

② 自靖・自献－内面的には良心の安（靖）らかな満足、外に発しては、世のため、人のために自己を献ずること。